平成21年度　市長との対話会（タウンミーティング）美浜区会場　議事録

日　　時：平成２１年１１月２９日（日）　１４：００～１６：００
場　　所：美浜区役所　講堂
参　加　者：６４名

■開会

【原企画課長】

たいへん長らくお待たせいたしました。定刻となりましたので、ただいまより、市長との対話会、10 年後、20 年後のまちづくりの方向性について、を開会いたします。

それでは、対話会の進行にあたりまして、本日のスケジュールと連絡事項を申し上げます。まず本日のスケジュールですが、はじめに市長より、新たな基本計画の策定や本市を取り巻く状況につきまして、ご説明をさせていただきます。その後、市長とご来場の皆様方との意見交換会に入らせていただきます。

次に、連絡事項でございますが、本日配布させて頂きました式次第の中ほど、２のところに、お願いを記載させていただいておりますので、大変恐縮ですが、皆様におかれましてはご一読いただきますようお願いします。ご不明な点等ございましたら、お近くのスタッフまでお声かけてください。

なお、この対話会は、16 時までの予定となっておりますので、円滑な進行にご協力をお願いいたします。

よろしいでしょうか。それでは、熊谷市長、よろしくお願いいたします。

■市長からの説明　テーマ『10 年後、20 年後に向けたまちづくりの方向性』について

【熊谷市長】

皆様こんにちは。本日は日曜日のお昼にこうしてお越し頂きまして、誠にありがとうございます。

私が市長に就任いたしまして、もう少しで半年になりますが、ちょうど、これから千葉市の基本的な計画を定める時期に重なっております。その際に、極力、市民の皆様のご意見を頂きたいし、今までのように意見を聞く、聞き置くという形ではなく、市民の皆様がこの千葉市を、10 年後どういうまちにしたいとお考えなのか、そして、そういうまちにするために、行政と市民の役割はどうあるべきなのか、その中で、市民の皆様方がどういった形でご活躍をいただけるのか、そういった話をしなければいけないということで、こういった対話会を持たせて頂きました。

当然、この対話会で終わりではございません。ガス抜きのためにやっているわけではございません。これはスタートでございますので、こういったものを通じて、自分たちと、自分たちの周りの人たちとで、千葉市の未来について考えて、その中で、市民の役割はどうあるべきかなどを考えて、話し合っていかなくてはいけません。そういった意味で、この会を設けさせて頂いております。

美浜区の皆様方は、データなどから、どちらかと言えばまちづくりに関して主体的に考え

ている方が多い、というところがあるわけですが、今回は、個別の要望陳情を受けるというよりは、未来へ向けて、千葉市がどういう方向に向かって行くべきなのか、そういうお話をさせて頂きたいと思っております。

それでは説明に入ります。

今日の説明の流れです。まず、千葉市の基本計画について、そもそも基本計画とは何ぞやということを、ご説明させていただきます。

その次に、その基本計画を作るにあたって、共通の認識と情報を持たなければいけませんので、今、千葉市がどういう状況にあるのか、そしてこれからの 10 年、20 年でどうなっていくのか、そういった社会経済状況ですとか、財政状況について、お話をいたします。いくら、どういうまちにしたいということを語っても、先立つものがなければ何もできません。ですから、財政についても、お話を申し上げます。

そして、千葉市は財政が危険な状況に入っておりますので、その財政状況を、どのように健全化しなければいけないのか、という点について、お話を申し上げます。

そして最後に、これが本題でございますけれども、これからのまちづくりについて、どういうまちをつくっていくべきなのか、どのように、市民と行政が考えていかなければならないのか、ということを申しあげまして、後は、残りの時間をすべて意見交換とさせて頂きたいと思っております。

まず、基本計画の策定についてです。

基本計画とはそもそも何ぞや、というお話をさせて頂きます。

行政ですから、ある程度中長期的な計画に基づいて、運営がなされます。千葉市には３つございまして、まず基本構想という千葉市の市政の基本的な理念、これは非常に大きなものでして、たとえば住んでいて良かった、誇りの持てるまちにしようですとか、環境を意識したまちにしようですとか、非常に大きな考え方であります。

その下に、「ちば･ビジョン２１」という、平成 13 年から 27 年の 15 年間を対象にした基本計画というものがございます。これはもう少し具体的に焦点を絞ったものでございますが、これを平成 13 年に策定したときと比べて、社会経済情勢が大きく変動しておりますので、時代に合わないところもたくさんございます。なので、今回見直しをして、15 年ではなくて、10 年間というスパンでまちづくりを考えていこうとしています。

その下に、実施計画というものがあります。これはさらに具体的に、例えば、何百億円使って公園を何ｋｍ^{2}増やそうですとか、そういう具体的な計画です。千葉市の場合は、現在第２次５か年計画の期間中でして、これは平成 18 年から 22 年の５年間になっております。ここも、５年間では長すぎる、５年間では今の時代に合わなくなっているのではないか、ということで、３年間にしたほうがいいだろうというのが、私たちの考え方です。

では、基本計画を作るうえで、何を前提として考えなくてはならないのか、ということです。

まず、人口減少社会です。人口が減少するというのは、今までの基本的な前提が全部崩れ

るということです。日本が人口減少時代を迎えるのは初めてですから、初めての体験を、日本も、千葉市も、これからしていくわけです。そういった社会において、幸せを追求するまちづくりというのはどうあるべきなのか、考えていかなければなりません。

それから、地球の温暖化、環境問題が避けられない問題として出てまいります。

それから、分権型システムということで、これからどんどん地方分権が進んでいって、市でやるべき範囲が広がってきます。これは市で終わりではなく、市からさらに区や市民の皆様へ分権していくという、そういった分権型社会が求められてきます。

それから、少子高齢化社会ということで、子どもが少なくなる、そして高齢化が進んでいくということです。

そして、集約型都市構造ということです。これは少し難しい言葉ですが、今までは膨張を前提としたまちづくりでしたが、人口が減少すれば、まちはしぼんでいくわけですから、ここでしぼむというのは悪い意味ではなくて、そうなればさまざまな場面で、例えば交通ですとか、コンパクトなまちづくりへの転換が求められてきます。郊外にショッピングセンターを作っていくというようなまちづくりは、いずれ限界を迎える、ということです。

それから、市の財政状況の悪化です。今までは、経済も市の予算も拡大していくという、右肩上がりの財政基盤の中で、財政を考えてきました。しかしこれからは、急激な右肩上がりというのは考えられないわけですから、限られた予算をどう上手に使っていくかという考え方に、常に立たないといけないということです。

そういったものを受けて、新たな基本計画を策定していかなくてはなりません。策定の趣旨としては、そのような状況変化を受けて的確に対応する、それから、多様な主体、市民や企業、NPO という、行政だけではない、さまざまなまちづくりを担う主体が参加して頂くこと、そして、政令指定都市ですから、それぞれの区の特徴を最大限に発揮していくこと、そうわれわれは考えております。

スケジュールですが、先ほど申し上げたとおり。新たな基本計画は、平成 24 年度から平成 33 年度までの 10 年間を対象としております。この 10 年間の計画を作りましょうというところに、現在おります。

主な日程は、先月、その計画を策定する本部を市役所内に設置しました。そして、今月から来月にかけて、各区でタウンミーティングを行います。そして、このタウンミーティングだけで当然終わりではありませんから、その後、来年の１月から５月に、市民の皆様にワークショップをやって頂きます。ここでは、もう少し少人数で、市民同士でもっと深堀りして頂きながら、テーマを絞って話し合っていった中味を、集めていくことになります。そして、来年の８月に計画の原案を作成し、そして、その原案を受けて、まちづくりの専門家である学識経験者の方を交えた審議会にかけ、概ね、再来年の２月まで議論して頂きます。その上で、４月にパブリックコメント手続き、これは広く市民の皆様方から意見を集める手続きですが、これを経て、６月に計画を策定するという流れになっております。

１年半におよぶ、相当長いスパンですけれども、冒頭で申し上げたとおり、計画の中味も重要ですが、この計画を作るプロセスが私は非常に重要だと思っております。市民の皆様方が、未来の千葉市をどのように考えて、また、その中で、どういった役割を果たしていこうとお考えになるのか、そういったプロセスが、将来の千葉市の力になってくると考えます。

ですので、十分な時間と、それからいろいろな議論ができる種をまきながら、ここに到達したいと考えております。

それでは、基本計画を作るにあたっての大前提となる、千葉市を取り巻く状況について、ご説明申し上げます。

ここは、先ほど申し上げたような変化の話でございます。

まず、人口についてです。
千葉市では、人口がずっと増えてきました。現在、95 万 6 千人ほどです。これが平成 27 年には 97 万人に達し、ここから、少しずつ減っていくという予測になっております。
ここが一番大事だと思います。千葉市というのは、全国の県庁所在地の中で、戦後、最も人口が増えたまちです。５倍に増えたわけですから、それだけ、戦後、爆発的に人口が増えてきたんです。他の県庁所在地というのは、大名の城下町であったり、昔から地域の中心地でありました。それに対してこの千葉市というのは、戦後一気に大きくなった、95 万人までできた、そういう特殊な状況があります。その、日本の右肩上がりを象徴するような大都市の一つであった千葉市が、これから人口が減るということは、大きな変化なんです。この大きな変化に、的確に対応していかなければならない、ということが大事です。

人口が減少していく流れの中で、高齢化も進んでまいります。65 歳以上の方々の比率は、平成 17 年には 16.6%であったものが、平成 27 年には 25.1%になります。そして、平成 47 年には 33.2%、３人に１人が 65 歳以上という社会が来るということです。
これは、高齢者の方々を支えるさまざまなコストが、上がっていくということです。しかし、逆に考えれば、この方々が、まちづくりの中でどれだけお力を発揮して頂けるかが大事、ということです。この方々がどのように活躍して頂けるか、それがまちづくりの底力につながってくると、考えております。

これは社会保障費、年金や医療や介護といった費用が、どのように増えてきたかというグラフです。ちょっと細かいですけれども、見て頂ければわかるように、ずっと増えてきております。
注目して頂きたいのは、黄緑色の折れ線グラフです。これは、国民の所得に占める社会保障費の比率です。給料というのは、最近増えておりませんけれども、まあずっと増えていったわけですが、それ以上に、社会保障費が増えてきているということです。高齢化に伴い、この流れは続いてまいりますので、所得の中から自動的に払うコストが大きくなってくる、残りの限りあるお金をどう使っていくかということを考えていかなくてはならない、ということです。

それをならしたのが、この棒グラフになります。このとおり、年金も医療も増えてまいりますし、福祉も増えてくるということで、こういう前提のもとで、これからのまちづくりを考えていかなくてはならない、ということです。

千葉市の財政状況がどうなっているか、ということです。

この千葉市は政令指定都市に移行してから、非常に急ピッチで都市基盤を整備してきました。都市基盤というのは道路であったり下水道であったりしますが、そういったさまざまな施設の整備を進めてまいりました。その結果、例えば下水道でいえば、他の政令市に負けない普及率になっております。

そのように整備は進んできたのですが、急激に投資をしたために、借金も急激に増えてまいりまして、いまや１兆円を超える額になっています。１兆円といってもピンとこないかも知れませんが、来年度の予算編成では、270 億円も足りないということで、払わなきゃいけないお金に対して、収入が 270 億も足りないという状況にあります。

今までは、お金が足りなければどうしていたかというと、借金をしていたわけです。もしくは、借金の返済を遅らせたりとか、そういうことをやっていたんですけれども、実はもう、こういう手法が限界にきております。

夕張市が破綻してから、国は地方財政健全化法という法律を作りました。これは、借金をし過ぎている自治体に対して、国が、このままではここはだめですよという、イエローカードなりレッドカードを出すという法律です。

これが実質公債費比率、ちょっと言葉が難しいんですけれども、これは１年間の収入のうち、借金の返済にとられてしまうお金の割合であり、収入に占める借金返済の割合です。これが千葉市は 25%を超えてしまう、今のままいくと、超えてしまうという状況です。

25%を超えると、先ほど言ったイエローカードを国から突きつけられます。早期健全化団体、つまり、早く財政を健全化しなさいよ、という都市になってしまうわけです。どうなるかと言うと、おそらく全国の新聞の一面などで、千葉市が大都市で初めて早期健全化団体に転落、という文字が躍ってしまいます。そうすると、新しく千葉市に住もうという人が一気に少なくなる可能性があるということです。

われわれは、このままだと青のグラフのように平成 24 年度に 25%を超えてしまいますから、この赤のグラフのように、25%を超えないようにしなければなりません。これが、今の千葉市のお金の状況です。

では、具体的にどう財政を健全化させようと考えているのか、ということです。

ご存知の方も多いと思いますけれども、先月、私は「脱・財政危機」宣言を出させて頂きました。財政が危ないですから、こういう取り組みをして脱出するんだという宣言です。

財政危機宣言もしくは財政非常事態宣言というものは、過去に他の市でも出しています。長期的にみて、このままでいくと危ないから、だから建て直しますよという宣言を、川崎市や広島市が、過去に出しております。

そういった中で千葉市も出したわけですが、千葉市は、例えば生活保護の割合も低いですし、これは関西では高いんですが、市民一人あたりの納税額も高いですし、政令指定都市の中では、比較的若い方が多いですし、あと５年、10 年のスパンで言えば、比較的恵まれている状況です。そういう背景がありますから、十分脱出できるんだ、という意味も込めて、暗い話は嫌ですから、「脱・財政危機」宣言という形で出させて頂きました。

具体的に何をやるのかということですが、まず収入の増加策として、市税の徴収率を上げるということです。どういうことかと言うと、千葉市は大都市の中で、最も徴収率が低いんですね。払って貰わなければいけない人たちから、正しくお金を集めていなかったまちです。ちゃんとお金を払って頂ける方には、ちゃんとお金を払って頂かないと、逆に言えば、真面目に払っていた人が、払わなかった人の分まで負担をすることになります。そういう不公平を生み出してはいけませんから、われわれは、きめ細かくチェックしていこうと考えております。

もちろん、お支払いになれない方に対しては、例えば分割払いや減免の措置をとるだとか、そういうきめ細かい対応が必要です。ですけれども、少なくとも、払えるのに払っていない人たちに対しては、きっちりとお金を払って頂きます。それだけでも増収効果がありますから、そういった基本を押さえていこうと言うことです。

それから、保有資産の有効活用です。使っていない土地や役割を終えた施設などを、民間に売却したり、民間に委ねたり、もしくは新たな活用をする、そういったことを考えて、今ある資産を最大限に活用していかなければということです。

それから、受益者負担の適正化です。これは、利益を得ている人に対して、適正な料金をお支払い頂かなければいけないだろう、ということです。例えば、下水道の料金は、千葉市は他の政令市と比べても安い方だったりします。例えば、コミュニティセンターを使うときも、今は無料で使えます。しかし、他の市を見ると、コミュニティセンターを使うときに無料にしている都市の方が、今は少ないような状況です。

別に１万円取るとか、そういう話を申し上げているのではありません。しかし電気代ですとか、受益をするからには最低限のお支払いをして頂かなければというのが、われわれの考え方です。

午前中の会合で、この収入増加策の中になぜ産業や経済の分野が入っていないんだ、と言われました。これはですね、産業育成ですとかそういった経済の振興策は、今やってすぐ花が開くものではありません。来年、再来年という短いスパンで崖っぷちにある中で、今お示しした内容のものには即効性があるだろうということで、出させて頂いております。そのような理由で、「脱・財政危機」宣言には入っていませんが、当然、経済の振興も考えておりますので、そういったことについても、意見がございましたら、仰って頂きたいと思います。

それから、支出の抑制ということです。人件費ですけれども、市民の皆様方にある程度の我慢をお願いする以上、まず自分たちが率先しなければということで、私と副市長の給料は、９月に議会にご承認を頂きましたので、10 月から大幅にカットしております。ただ、私や副市長がいくら頑張っても限界がありますので、市役所全体として、人件費を見直していかなくてはと思っております。

それから、民間機能の活用ということで、民間ができるものを市がやっていないか、民業の圧迫に通じるようなことを市がやっていないかと、そういったことをもう一度見直して、民間の知恵と機能を活用して、行政をスリム化していこうということです。

それから、外郭団体の統廃合ということで、国でも天下りの話がよく言われておりましたけれども、千葉市においても、役割を終えた外郭団体であったり、不必要な外郭団体があるならば、それは統廃合していこうということです。そして OB の派遣ですが、私は、OB が外郭団体にいくことを全て否定しているわけではありません。行政のことをよく知っている人、

能力のある人は、当然、ご活躍頂くべきだと思っております。しかし、OB を受け入れるために作っているポストがあるならば、当然、見直すべきだということです。

それから、事務事業の徹底した見直しということで、一昨日ですか、事業仕分けが国の方で終わりましたけれども、あれと同じようなことを千葉市でもやっております。外部の方に千葉市の事業を見て頂いて、本当に必要なのか、民間でできないのか、そういったことについて、ヒアリングをしたうえで判断して頂きました。

国の事業仕分けと違うところは、傍聴に来られた方も、意見を言えるようにしたことです。３分限定ですけれども、外部の方が判断を下す前に、傍聴の方に意見を求めるようにしました。大事なことは、国の事業仕分けでも科学者の方が予算削減に反対されましたように、どんな事業でも 100%無駄なものはありませんし、受益者、利益を受けている人やそれで助かっている人もいますから、そういう人たちの意見を聞いたうえで判断することが必要だろうということです。また、どういった事業が対象となったかも公表し、ファックスやメールでも意見を受け付け、600 件を超える意見を頂いております。そういう意見を全部受け止めたうえで、私たちは予算編成の中で、現実的に、それぞれの事業をどうしていくのか対応していきたい、ということでございます。

それから、建設事業の厳選ということで、公共事業についても見直しを考えております。集中と選択をしなければいけないと考えておりまして、一律にカットするやり方ではなくて、例えばもう少しで道路が開通できるとか、もう少しで施設がオープンできるとか、そうした、もう少しで効果が発揮できるものについては集中的に投資していきます。その代わり、例えば用地の買収率がまだ５％だとかそういった道路については、２、３年ないし５年間くらいの間凍結したりということです。

こういう大きな考え方に基づいて、行政改革推進プランと財政を健全化させるプランのそれぞれを、来年の３月までに作る予定になっておりまして、今、作業しているところでございます。

具体的にどういうものかと言いますと、計画期間は平成 22 年度から平成 25 年度の４年間で、具体的な内容は、まずは計画的に財政運営をしようというもので、ちゃんと中期、長期の見通しを立てたうえで、お金を使っていこうということです。まあ当たり前の話ですが、まずはこれを徹底させなければいけない、ということです。

それから、簡素で効率的な行財政運営ということで、先ほど申し上げたように、民間でやっていけるものは民間にやって頂く、役割を終えた事業を見直すとかして、とにかくスリムな、無駄のない行政運営をしていこうということです。

それから、財政基盤の強化ということで、ある程度しっかりとお金が取れるような、不況の中でも耐えていけるような、体力をつけていこうということです。

それから、市民とともに構築し、市民に信頼される行政運営ということです。今日のタウンミーティングもそうですが、市民の皆様方と一緒になって、そして市民に信頼されるような行政運営をしていこう、そのためには、私たちの持っている情報を積極的にお出しし、皆様方にも考えて頂く、今までのような上意下達型ではなくて、陳情とかお願いの政治ではなくて、一緒になって考えていこうというものです。

そして、市民の視点に立った、行政サービスの推進ということです。これは、市民の要望

を何でも聞くということではありません。市民の視点に立って、何が求められているのか、常にそういう目線で考えていかなくてはいけない、ということです。

それから、そういうものができる、組織、体制を作っていくということです。とにかく現場重視ですね、市民の皆様方の声に接する現場に、より権限とお金を渡していって、そして現場で物事が解決できるような、または現場の認識を本庁に持っていくことで組織が変わっていくような、そういった市役所の形にしなければいけません。何でもデスクで考えるんじゃなくて、現場の考えで、物事が決まるような形を取りたいということです。

それから、そういうものの大前提は、職員の能力と意識とモチベーションです。施策を実現するためには、職員の能力が必要不可欠ですから、職員が能力を発揮できるような、制度作りとか人材育成をしていかなくてはならない、ということです。

ここまで、千葉市の現状ですとか、そういった前提についてお話をさせて頂きました。こういった共通の認識に立ってこれからのまちづくりを考えなくてはならないということで、お話をします。

今までのまちづくりはどうだったかと言いますと、国が決めて、そして国がやらないものを県がやって、県がやらないものを市がやって、そして市から自治会などの地域コミュニティや市民の皆様方に下ろしていくという、こういう上から下の流れだったと思います。

今、国でも地方分権の議論が行われていますけれども、私はこの議論も本質的には間違っていると思っています。なぜかというと、国がやっている仕事のうち、どれを地方に渡せるかという議論です。これは、本来逆です。行政の仕事を、国、県、市の区別なく全部出してみて、まず、現場の市がどれだけできますかということをやって、できないものを県がやって、国がやるという姿でなければ、いけないと思います。

これからの姿がどういうものかと言いますと、まずは、市民の皆様方がまちづくりをどう支えていけるかということを議論して、それから、個人ができないことを地域コミュニティが補完し、地域コミュニティができないものを市が補完し、市ができないものを県が、県ができないものを国がという、こういう流れでなければなりません。

自治というのは自ら治めると書くわけですから、まず、この原則に立たないといけないと思います。自ら決めて、自ら動いて、そして責任もとる。しかし、市民の皆様方には仕事がありますし、当然忙しいわけですから、税金というものを払って、そして行政組織というものを維持して、そこがサポートをしていくというのが、本来の姿だと思います。

21 世紀の人口が減少していく社会にあって、右肩上がりの中でできた市民と行政のあり方をもう一度見直して、市民の皆様方に権限を下ろしていきながら、市民の皆様方にも汗をかいて頂きたいと思っておりますし、そのためにもわれわれは、そういった市民の皆様方をしっかりとサポートしていく、そういった行政運営体制でなければ成り立たないと思っております。

今回の基本計画は 10 年間の計画ですが、別に 10 年先がまちづくりのゴールではありませんので、20 年、30 年を見据えた中で、折り返し地点としての 10 年先という感覚で、作っていかねばならないと考えております。ですから、このタウンミーティングで皆様方と意見交

換したいことは、10年後、20年後でも結構でございますが、この千葉市がどういうまちになれるかということです。

千葉市の特徴、強みはいったい何で、そこに対してどう力を注いでいくべきなのか。お金にも、人にも限りがあります。しかし、全国に誇れる、住んで良かったと思えるまちにするためには、どう力を注いでいくべきなのか。さらに言えば、何でも行政がやるとコストが高くなりますから、お金がないなら市民がこうすれば同じようなことができるじゃないか、とか、そのためには行政はこういう仕組みづくりをすべきじゃないのか、とか、そういう議論をしたいと思っております。

これからのお話し合いの材料として少し申しあげますと、この千葉市の特徴、そして千葉市の強みとして、まず、東京都心に近く通勤に便利ということがあります。私は、ベッドタウンというのは決して悪いことではないと思います。

そして、気候が温暖で住みやすいということがあります。ちなみに、千葉市にずっと住んでいるという方、どれくらいいらっしゃいますか。美浜区では、あまりいらっしゃいませんか。千葉市にずっと住んでいるという方は、この気候がいいというのを意外とわからないんですね。私は、いろいろなまちに住んで千葉市に引っ越してきましたけれども、非常に気候が温暖です。これは住めばわかるんですが、なかなか、伝えることが難しいんです。

夏はわりと涼しくて冬は暖かいという、そういう恵まれた気候であることも、住環境という点で、強みだと思います。

そして、海があるということがあります。さいたま市には負けないんですよ。海は、人間の力では作れませんから。そういった意味では、海を活かしたまちづくりというのも、大事なポイントです。

そして、安心安全な生活ができる、豊かな自然に恵まれているということです。若葉区や緑区をはじめとした地域には、緑豊かな自然がありますので、そういったものをまちづくり全体の中でどう活かしていくのか、農業もこの千葉市は比較的盛んですから、こういったものに市民がどう接し、味わっていけるかが非常に重要なポイントです。

観光資源としては、幕張メッセがあります。この幕張メッセは、美浜区の方には馴染みがあると思いますが。ちなみに、今年、幕張メッセに行ったという方、どれくらいいらっしゃいますか。美浜区にはさすがにいらっしゃいますね。幕張メッセというのは、日本どころか国際的にみてもそれなりの展示場ですから、行けば、世界的なものが見られるわけです。ですから、近所の美浜区の方だけじゃなくて、もっと、いろいろな方に行ってほしいと思います。それで初めて、ああ、幕張メッセがあって良かったなあと思えるわけです。若葉区や緑区に行きますと、美浜区は贅沢だという意見が出ます。そういった方にこそ、幕張メッセに行ってもらって、すばらしさを知ってほしいと思いますし、逆に言えば、美浜区の方も若葉区や緑区に行って、豊かな自然を味わってほしいと思います。そうするために、じゃあ何をしなければいけないかということを、しっかり議論しなくてはと思います。

次に花火大会、それからポートタワーがあります。それから動物公園です。そして、ロッテとジェフがあります。ジェフは今日、ホームで試合がありますね。Ｊ２に降格はしましたけれども、野球とサッカーのプロチームが同じ市にあるというのは、なかなかない強みであり、魅力であります。これをまちづくりの中でどう活かすのか、どうアピールしていくのか

が、重要なテーマだと思っております。
　こういうようなお話をさせて頂いたうえで、未来の千葉市をどうしていくのか、皆様とお話し合いをしたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

■意見交換
【原企画課長】
　これからの時間は、市長とご来場の皆様方の意見交換となります。
　できるだけ多くの方々にご発言を頂きたいと思いますので、大変申し訳ございませんが、お一人３分以内で、簡潔にご発言頂けますようお願い申し上げます。30 秒前くらいになりましたら、両方から札が出てまいりますので、これを見ましたら、お話をまとめて頂ければと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。あと、ご発言の前にお名前を頂戴いただけたらと思っておりますので、よろしくお願いいたします。
　それでは市長、よろしくお願いいたします。

【熊谷市長】
　それでは、３人くらいずつテーマに関連するような質問をまとめていって、議論をある程度集約していきたいと思っておりますので、ご理解頂きたいと思います。

【市民 A】
　今の説明について、質問したいことがあるんですが。先にテーマを整理するのですか。

【熊谷市長】
　もちろん、質問でも結構でございます。あとで、そういった時間もとりたいと思います。
　それでは、ご意見のある方、挙手をお願いします。

【市民 B】
　今までは東京に通っていたので、退職してから千葉市に貢献したいなと思っています。
　私どもの住んでいる真砂のすぐそばに草野水路があって、住民の方が、一丁目ですけれども道路に面して花を植えて、きれいにしているんです。で、同じ道路の向かい側に、水道局が管理している土地があるんですが、こちらにも、住民が野菜やお花を植えて手入れをしているんです。
　ところが、５ｍおきに「ここは水道局の土地だから勝手に耕すな」とか、「勝手に草を植えるな」とか、「捨ててしまうぞ」とか、脅し文句みたいな看板が立ててあるんです。知らない方もいらっしゃると思いまして、写真を撮ってきました。
　これが、住民が植えている写真です。これには、千葉市から苗とかの補助が出ていると聞いています。で、これが、水道局が出している赤い大きな看板です。これ１個立てるのに、数万円するんじゃないかと思います。きれいなお花が植えてあるところの前に、５ｍおき３ｍおきに看板があります。
　お金の無駄と、あと、水道局は暇なんだねと思いました。せっかく道路部が市民に対して、きれいにしてねってやってるのに、水道局と道路部は、同じ行政としてどうなってるのと思

うわけです。やっぱり 10 年後を目指して赤字を節約していこうとしたら、千葉市役所の中でも、ちゃんと政策を統合してほしいと思います。

【熊谷市長】
個別の話かと思いますので、あとでご回答しますけれど、方向性としては、美観だとか環境、花づくりや緑の話になりますけれども、そういった話について意見がある方は、挙手をお願いしたいと思います。

【市民 C】
コミュニティセンターの少し向こうに、新しく文化センターができました。ところがその壁は、区役所側はきれいなんですが、裏の団地側はほぼ真っ黒です。市の方は、黒ではないと言うんですが、団地側から見たら真っ黒です。
最初あれが現れた時は、刑務所ができたのか、監獄じゃないのか、物置場なのかとか、そういうように非常に不評でした。市長への手紙にも書きました。けれども全然変わっていません。相当の費用をかけたデザインのはずですけど、団地の住民を馬鹿にしているんじゃないかと思っております。早急にあの色を変えて下さい。

【熊谷市長】
はい、意見は承りますけれども、今日の場は、個別の要望、陳情の場ではありません。個別の要望、陳情に対しては、ほかの手段を用意しておりますので、そちらでお願いいたします。今日は、個別の話ではなくて、千葉市の全体に通用するような、方向性について議論していきたいと考えております。
それでは、景観、それから緑の話についてご発言をされたいという方は、そのテーマでお願いします。

【市民 A】
10 年後、20 年後というお話ですが、景観ということで言うと、浜田川の周りでは、メッセの向こうですが、30 年前に、今でも人ひとり行かないような、ものすごい金掛けて馬鹿げたことをやっているんですよ。そういう歴史を振り返って、これから行政はどうあるべきかという話を市長から頂けるかと思ったら、そうじゃないのでちょっとがっかりしたんです。
例えばこの（市長説明資料の）20 ページですが、本市の特徴、弱み強みって書いてあります。弱みは何ですか。美浜区で言えば、おそらく世界で一番、地盤状況が悪いんじゃないですか。ハザードマップを見たら、20%以上が倒壊するような、まっ茶色の凡例で塗られている訳です。そういうところだから、他の所と比べて、水道とかライフラインについて優先的にやります、そういう方針ならわかりますが、それも一つもないじゃないですか。
それから、さっき確認したいと言ったことは、先ほど市長は、市から区、区から市民に分権すると仰いましたが、市民に権限を下ろしながらいくと仰いました。非常にいいことです。ただ、市民が分権に参加ってことは、今まで私どもがやってきた事とどう変わるんだと、それをちょっと確認したかったんですね。
それから、社会保障給付費と国民所得の関係ですが、あれは全国で、じゃあ千葉市はどう

なっているのかということと、それから、最初に話したとおり、千葉市の 10 年後、20 年後を話すんだったら、弱みを解決して、安心安全にいけるようなまちにすべきと思います。歴史の話については、ずっと以前から大失敗をやってるんです、千葉市は。

【熊谷市長】

ありがとうございました。

まず、花の話です。市有地だったり、国有地だったり、そういったものに対して、野菜とはっきり書いているのは、おそらくクレームがあったんだと思うんです。畑で何か農作物を作った場合は、当然作った方に利益が出ますから、自分たちの土地じゃない土地を使うという時には許可が必要ですよ、という考え方に則ってやっているんだと思います。

こういう土地については、道路部、それから水道局と話をして、市民に正式に委ねるようなプロセスを取るか取らないかというお話になると思います。考え方としては、千葉市に、お花とかを作れるような遊ばせている土地があるならば、積極的に市民の皆様に開放していこうと、そういう考え方の中で、この話はしていかなければならないと思います。

壁の話は、これはもう作ってしまったので何とも言えない訳ですけれども、一つひとつの建物のベストを考えて作るあまり、全体的に考えれば、デザインが統一されてないという話になると思います。

幕張ベイタウンが、なぜブランド価値を持っているかと言うと、あれは厳し過ぎるくらいのデザイン規制をしたために、結果的に、まち全体に統一感と魅力が生まれているからだと思います。そういう意味において、千葉市はもっとデザインというもの、まちの美観、景観について戦略的に、長期的に、どうやっていくんだという事を、考えていかなければと思います。人口が増えればいいという訳ではありませんから、長期的に考えれば、まちにブランドができて、市川、船橋ではなく、あえて千葉市のここに住みたいんだと言わせるようなまちを目指していかなければいけないと思っておりますので、景観をどうしていくかというのがまちづくりの重要なテーマだと思います。

浜田川の話ですが、これは正直に言って、限られた時間の中でのプレゼンですから皆様方、納得のいかない内容も出てくると思います。自分に一番ぴったりなものを全員が求めたら、当然それは成立しませんので、ご不満のある内容だったかも知れませんけれども、そういうことも含めて、こういう場でご発言をして頂いて、前向きに建設的に、じゃあどうしていけばいいと皆さん方はお考えになっているのか、そういう話をする場だという事を、ご理解をして頂きたいと思います。

具体的なご質問の中で、分権の話がございましたが、何が変わるのかというのは、今までは行政がいろいろな計画を決めて、お願いしますという事が多かったと思いますけれども、計画を作る中においても、今回こういうものも含めて市民の皆さん方の思いというのをある程度受け止めるという事が一つであり、それから、市民の皆様が主役になってやって頂く事業を増やすということがあります。

今までは、市が主で民が従というものもありましたけれども、それを比率としては少しずつ、市が従で、市民の皆様に決定も頂くし、その分やって頂く比重も増えていく、そういう形で市民の皆様方の活力を生かさなくてはいけないという事です。

社会保障費の話は、千葉市だけが国の流れと別のことをやっている訳ではございませんの

で、大きな流れとしては、ほぼ同じでございます。
いったんこれで終わりましたので、もう一度、テーマを含めて自由にご発言をして頂ければと思います。

【市民 D】
磯辺は、高齢率が 22.2%です。市が 19%、美浜区が 16%という中、極めて高齢化しているまちです。
市長のプレゼンにありました目指す姿ですが、目指すのではなくて、私たちは既に進み始めました。なぜなら私どもは、「やってみようまちづくり」という市の呼びかけと、私どもの「まちづくり研究会」というものを設けた中で、活動を進めたからです。
その後、地域福祉計画というのを区が出しておりますが、われわれはそれを受け手ではなくて、既に考えておりましたので、高齢者の支え合い、近所の付き合いを目指そうという事で、地域福祉計画推進モデル事業に採用頂けたようです。
今、まさに私どもは、（市長説明資料の）18 ページのこれから目指す姿、パブリックから地域へという、この段階を走っております。ところが、なかなか行政の縦の組み合わせ、縦割りと申しますか、この壁というのは厚いようでございます。これは個別の陳情ではございません。ただ、なるべく横の連携が取れるようにすることが大事かと思います。
例として申し上げますが、幸いにも中学校の空き教室を一つ、ご提供頂きました。地域ルームという形でご提供頂いたんですが、残念なことに、貸す側は教育、利用する側は福祉とかまちづくりということで、何一つ、例えば箱を改装する事もできないようでございます。そういったことから、これはここだから、これはあそこだからという事のないような、横の仕組みという事でやって頂くと、18 ページの目指す姿に近づくのではないかなと思います。
それと、こういったことをやる市民の活動については、深いご理解を、支援というんですかね、助成とかをお考え頂きたいと思います。
あと、収入の増加ということで、一案を申し上げますと、区役所の入口に、市税徴収強化月間って一年中貼ってありますから、あそこにどれだけ成果が上がったかを付けて、お知らせなさるようにしたらと思います。

【熊谷市長】
ご意見ありがとうございました。
地域福祉計画の話という意味では、互助のまちづくりのお話だと思いますので、それに関連するようなお話をして頂けたら、と思います。

【市民 E】
私も磯辺ですが、美浜区の中でも高齢化が特に進みつつあって、しかも団地が 41%という事で、５階建てが多いんです。しかもエレベーターがない。というところですので、高齢化する中でデイサービスとか、病院通いが厳しくなってきます。そういう方たちも出てきております。
私は、階段昇降機を持ってする市民事業をやっているんですけども、千葉市の地域福祉計画の中には、市民事業を推進していきます、応援しますという１行がちゃんと入っているんですけども、具体的な応援というのは、今のところ何もないです。

特に困っているのは、今の方も仰いましたけど、市民が地域で使っていくような事務所みたいなもので、安い物件がないということです。美浜区は空き地もないですし、家なんか借りようと思っても賃料が高いですし、稲毛みたいなところで、小さなところが安く借りられれば、活発な市民活動がやりやすいんです。拠点作りっていうのができるんです。

美浜の場合は、ちょっとそれが構想になかったのか、こういう高齢化の時代を迎えて、本当に市民事業が必要な時に、そういう拠点というものを作ることは、なかなか難しいです。ですから、市民事業に利用できる、無料でというのは理想ですけど、お金を払ってでもですね、そういったところが利用できるよう整備して頂けたら、私たちはとっても嬉しく思います。

私たちも力を尽くしたいと思いますし、市の方もそういった考え方を持って頂けたらなと思っております。

【熊谷市長】

ありがとうございます。

地域活動、それから地域活動の拠点という、そういったお話だったと思います。そういうテーマでご発言等ございましたら、お願いいたします。

【市民 F】

私はワークホームをしております。

今の拠点づくりなんですけども、ワークホームっていうのは、土日は働いてないものですから、そういう部屋を有効に利用されるのも一案かと思いますよ。

【熊谷市長】

ありがとうございます。

確かに磯辺は高齢化が進行していて、千葉市全体のモデルにもなり得る、そういう場所だと思います。地域福祉計画の話は、タウンミーティングをやると必ずと言っていいほど、出てくるんです。あれが本来の区ごとのまちづくり、特に市民ができる側の方の基本的な計画であり、多くの人たちが参画して作ったにも関わらず、推進体制が満足いくものではないという意見も、多くの人たちから頂いております。

まさにそこが、これから問われてくるところだと思っておりますし、区の地域福祉計画を推進する区役所の機能を、もう少し強化していかなければだめだろうという、そういうような話にどうしてもなってしまいます。そこが課題だと思います。縦割りの話もありましたけれど、やはり現場は、縦割りなどと言っていられないところですから、現場の人たちの問題意識が、そのままスムーズに政策や予算に反映される仕組みというのが、縦割りをなくすことにつながると思います。現場から、縦割りをなくしていくことだと思っております。

空き教室の話も、学校は教育委員会が所管していて、どうしてもお互いの目的が違うがために自然と溝ができてしまいますので、そういうところをどうやってなくしていって、空き教室というもの、特に美浜区は、これからも学校の統廃合の中で教室が余ってきますので、そこの部分をどれだけ拠点として使っていけるか、という事だと思います。

それから、地域活動に対する助成の話ですが、これは考えていかなければいけないと思いますし、やはり市民を支える制度が大切です。実は前日、そういった話が出てまいりました。市民の

皆様が一生懸命、地域のためにやっていることをもっと多くの人たちが知って、もっと多くの人たちがそれにお金を出すという仕組みを作っていかなければ、将来的には成り立たないと思います。別に責任から逃げているのではなくて、そういうものもなければ成り立たないと思っております

地域のために動ける、それはお金であり、エネルギーだと思いますけど、そういった人と、実際に困っている人たちを出会わせる、そういった場をどうやって行政が、行政だけじゃないとは思いますけれども、構築していけるかという話になってくると思います。

ワークホームの話は、具体的な話で、ちょっとそこまで考えていなかったところがありますので、参考として十分考えさせて頂きたいと思います。

それではもう一度、自由なテーマでご発言をお願いしたいと思います。

【市民 G】

まず、財政が豊かになる事が非常に大事だし、若い人がどんどん集まってくる元気なまちであるべきだと思っています。長い目で見れば、そういうまちを目指すべきです。そのためには、新しい産業を入れていくという事が大事だと思います。環境、医療、IT、いろいろありますが、私はその中で特に IT についてお話をします。わかりやすく言うとシリコンバレーです。オフィスと住宅が一緒になって、きれいなまちづくりをしていくと良いと思います。10 年ではいかないかもしれませんけど、20 年、30 年になるかも知れませんけども、アメリカのシリコンバレーみたいな形に持っていけないかなと思います。

千葉が恵まれているのは、東京のすぐ傍という点です。おそらく東京の人の３分の１とか、４分の１が千葉から通っていると思います。さっきもありましたけども、東京に通勤している人はたくさんいます。だから、東京のノウハウなり、知識なりが千葉にあるんです。

みんな高齢に、シニアになっていくわけです。そういういろんな経験を持った、東京で経験してきた人間がたくさん千葉にいて、そういう人たちがボランティアで、いろいろ活躍してもいいんじゃないのかと思っています。おそらく 60 代から 70 代にかけて 10 年位は活躍して貰えます。市からお金寄こせってことじゃなくて、ボランティアでやっていきますよと。そういう人たちを大量に抱えていますので、ぜひその活用をしていくような、仕組みを作れたらいいんじゃないかなと思います。

まとめますと、ひとつが、シリコンバレーみたいな形を目指すべきだという事で、ふたつ目が、たくさんの経験を持っているシニアを、もっと生かしましょうという事です。

【熊谷市長】

ありがとうございます。

特に後半のシニアの方々の力を活かすというのは、ここは非常に大事なポイントだと思います。これをやれば、もっと千葉市に活力が出てくると思います。

そういったところで、行政もこういうふうに考えていかなきゃだめだよとか、私たちもこういうふうに考えていこうよとか、そういうお話があれば、挙手を頂きたいと思います。

【市民 H】

先ほど言われた高齢化ですが、今まで、どちらかというとコストというとらえ方でしたが、こ

れをインフラと捉えて、人材活用する事ができないのかなと思います。特に千葉都民は、ある程度のレベルの方がそろっていると思います。

市のコストを下げていくためには、シルバーも含めた人材活用で、民間の人を入れて早く切り替えていく必要があるんじゃないかと思います。アドバイザー的な立場で、お手伝いもできるんではないかなと思います。IT 関係で分析をやった方もたくさんいますし、すぐ近くに幕張もございます。そこの人材も活用できます。

それと、先ほど市長が言われました自然資源ですが、海があることを、もっと観光に活かしていくべきだと思います。一昨日、東京の高尾山に行ったら、あちらはあちらで、紅葉があって非常に美しい。千葉にもこういったものはあるんだけど、見過ごされている海が、もっと活用されたらと思います。ヨットハーバーがあるんだから、ヨット教室を夏に開いたらどうだとか、若い人も含めて、シルバーを活用すればもっともっと展望が開けて、新しい産業ができるんじゃないのかなと思っていますので、そちらの方も頭の隅に入れて、これから手を打って頂きたいなと思います。

【熊谷市長】

ありがとうございました。他に、いかがですか。

【市民Ｉ】

先ほど市長から、打瀬の景観の話が聞けました。ここはお話にございましたように、ガイドラインに基づいて景観をきっちり決めています。これを、今千葉市でおやりになってらっしゃる景観条例の話に、ぜひ載せて頂いて、一緒にやらせて頂こうという事で、チームを作って動き出したいと思います。

それからそこに書いてありますように、千葉市の強みとして海のお話が出てまいりました。実はこれも一昨年、県が中心になりまして、幕張海浜公園のＢＣ地区で、もっと賑わいのあるところにしてよということで、いろいろ研究会を作って、報告書まで作ったんですけど、その段階で終わりでございました。せっかく、かなりの労力をかけて、いろんな人の力を借りながら作ったものを、まあ県が作ったという形ではあるんですけど、やっぱり先ほど仰ったように、せっかく千葉市を良くするということで皆さんやられたのですから、そういう事を活かせるような形に、ぜひして頂きたいなと思っております。

【熊谷市長】

ありがとうございました。

ではシリコンバレーの話ですけれども、IT の分野も千葉市の強みですから、どうしていくのかということがあります。私も「科学の都」と選挙戦で訴えさせて頂きましたし、千葉市の科学的な財産を、どうやって連携していって一つの魅力として発信していくのか、現在考えております。

シリコンバレーは、産業の誘致もそうですけれど、もともとあそこに IT 関係の人材が育つ教育機関が集積していたんですよね。大学とかそういう機関が集中していて、結果的にその人材を活かすために、そういう企業が生まれたり、進出したりして、シリコンバレーになっていったという背景があります。

私も「科学の都」を産業の誘致という観点でもやっていこうと思っていますし、そういう IT だ

ったり、理系に強い人材をしっかりと育てていって、そういう人材が千葉市には十分いるから、そういう企業が来るべきだということですとか、それから、今は学生でもビジネスが立上げられますから、そういう理系に強い、科学に強い人たちが、そのまま千葉市でビジネスを起こせるような環境を作っていく、そういう事が重要なんだろうと考えております。いずれにしても、千葉市としては、そういう方向性であることは間違いないと思います。

シニアの活用方法は、大きなテーマだと思います。先程も申し上げましたし、昨日も稲毛区で言われたんですが、ボランティアをしたいんだけれども、自分を必要としているところがどこかわからないという人、それから逆にボランティアを求めているんだけれども、どうやって求めたらいいかわからないという人、そういう人たちが出会っていけるようなところを、どう作っていけるかが重要だと思います。

先ほど、ノウハウを持っている人が多いとありましたが、例えば会計事務所を卒業した人は会計に強いですとか、いろいろなバックグラウンド、ノウハウを持っている人たちがいますので、そのノウハウをちゃんと把握して、適した場所をどれだけ出していけるかが、おそらくこれから重要になってくるんだと思っております。

海の話がありました。私は神戸にも住んだ事がありまして、千葉市は、あまり海を活かしていないと思います。もちろん、神戸とは港の性格の違いもありますけれど、それでもやはり海をもう少し活用していって、海を感じさせるまちづくりをしていくべきです。ここは特に美浜区という名前があるわけですから、海をもう少し活用していくべきだと思っています。

幕張の海浜公園の話は、私も今積極的に知事にも話をしておりまして、これは一緒になってまちづくりの中で考えていくということにしております。県がとか、市がとかいう話は、やっぱりおかしいと思うんです。市民にしてみれば、市だって県だってどうだっていい、ここに地域があるだけ、まちがあるだけだと思うんです。

千葉市は、県庁所在地であるがゆえに、県立美術館とか県の施設がたくさんあるんです。でも、市が出す広報物には、県の施設は載らないです。そういう形で、県と市が、同じ市にあるものについて、それぞれ別々に宣伝したり、取り組みをやっているんです。私は、こういうのはおかしな話だと思っておりますので、千葉市の中にある、あらゆる施設をもう少し一体的にして、市民の皆様、若しくは市外の人たちに楽しんでもらうような戦略を作るべきだという事を、県に言っております。そういう方向性も、ここは県庁所在地ですから千葉市の大きなテーマになってくると思います。

それでは、また自由にご発言を頂きたいと思います。

【市民 J】

今、皆さんが仰っていたまちづくりは、すごくいいと思います。

35 年くらい前に越して来て、当時は陸の孤島って言われていたんですが、今はもっと精神的に、陸の孤島だなって感じているんです。働きたくても、働く場は高齢になってしまうとありません。やっぱり「これだけ」とか「こればっかり」という地域づくりは、だめだと思うんです。多様なまちづくり。お年寄りも働ける、そして若い人も入って来るっていうまちづくりを進めて頂かないといけないなと思います。

今、さしあたっての問題としては、老人ホームが非常に少ないんですけれども、一人だけで住んでいる住宅がいっぱいあるんです。そういう人の家を買い取る方式にして頂いたりして、老人

ホームを作って頂いて、その空いた所には若い人に安く入って頂くとか、そういう多様な人が働けるようなまちづくりが良いと思います。

じゃないと、全部更地にしてまた新しい人を入れるとかっていう、極端なまちになってしまうんではないかなっていう気がします。

【熊谷市長】

ありがとうございました。他に、いかがですか。

【市民Ｋ】

今日は、市民大学を卒業した５人の仲間でお邪魔しております。ここにいる仲間は、卒業してからもボランティア活動をやっておりますが、ほとんどの卒業生は、ボランティア活動に馳せ参じていません。という事になると、防衛大学を卒業して、防衛庁に勤めないで民間企業に行ってしまうのと同じように、税金泥棒じゃないかと、僕もよく話す事もあるんです。

せっかく税金を使わせて頂いて、市民大学に行かせて頂いた以上は、何かを生むっていうんですけれど、卒業してからじゃ、なかなかそういう気にならないのかも知れません。だったら卒業する前に、実務経験ではありませんけども、ボランティア活動を２年した人は優先的に入学させるとかが良いと思います。

これから高齢化社会で、ますます入学希望者が増えてくると思いますが、運のいい人は１回で当たっちゃうけども、悪い人は４回も５回も外れちゃうんです。こういう事じゃなくて、ボランティア活動、実務をやったら優先的に入れるですとか、そういった形が良いと思います。そうしないと、卒業したら仲間ができて旅行に行って旅行談義とか、何のために税金を使わせて頂いて、市民大学に行ってるんだかわからない連中を生みます。

それから、だいぶ前の話ですが、現役の頃に、ある県の大きな公園に行って、芝生の雑草をとっているお年寄りの方に、幾らくらい貰っているんですかと聞きました。ちょっとここでは言えないんですが、時給 1,000 円では企業が潰れちゃう時代なんですけれども、もっと、例えば市の発注する植栽だとか、単純にできる作業を有償ボランティアでやることによって、高齢者の働きがいにもなります。これを言うと語弊があるかもしれませんが、市も、余計な出費をしなくて済みます。行政も大変なんだと思いますけど、そういう事で原価の圧縮と言いましょうか、そういう事も必要だと思います。

話を整理しますと、市民大学卒業資格はそういう経験が必要だ、卒業してからもやる人はやれるでしょうし、現に私は全部無償でやりますし、交通費も自己負担という事でございます。それとあと一つ、どこで働いていいかわかんないというボランティアは、市民活動センターに行けば、何百というボランティア団体がありますんで、そこで、それぞれ合ったのを選んで頂ければ良いと思います。やる気があれば、なせばなります。

【熊谷市長】

ご意見ありがとうございました。

まず、独居の人たちをどうしていくかというのが、一つのテーマですよね。ご意見をどうぞ。

【市民Ｌ】

磯辺地区限定で、見守り声かけ運動をやろうということで、約２年経ちまして、昨日、第４地区の発足会をやりました。発足会って何だという事ですけれども、磯辺を５つの区域に分けまして、それぞれ自治会単位で、高齢者と身障者の見守り声かけ運動をやっていこうという事にしたわけです。その組織は大体できたと思っていますんで、この 12 月からさらに活動が始まります。

いろんな問題がありますけれども、ともかく自分一人でボランティアをやろうということではなくてですね、ある程度組織的な構想でやっていく必要があると思います。磯辺は今、人口が 18,000 人ほどで、7,000 世帯くらいあります。で、そういう人を対象にアンケートをしたり、説明会をやったりしました。

その中で思う事は、先ほども仰っていましたけど、磯辺は、昔は海だったんですね。計画的に建物はできましたけども、古い民家とかそういうものがないから、事務所を作るというか、事務所を設けたいと思ってもなかなかできない。で、ひとつはですね、磯辺の場合は、公立中学校が２つあって、小学校が４つあるんですが、少子化でどんどん子どもが減っていって、ゆくゆくは中学校は１校、小学校は２校というような格好になっています。先ほども話がありましたけども、空き教室がかなりあるんですね。なので、空き教室の活用をもっとやってほしいと思います。

それともう一つ、市長が仰ってましたけど、われわれの活動でも資金がありません。寄附行為がもっとあったらというか、援助してもらいたいというか、そういう方向にお願いしたいと思います。

【熊谷市長】

ありがとうございました。

団地の問題は大きな問題で、たぶん 10 年後なんかは、もっと大変なことになっています。団地でいかに同じ年代ばかりにならないようにするかというか、今から計画的にやっていかなければいけないと思います。細かい部分で言えば１階と４階の人の入れ替えだとか、そういう話も含めて、計画的にやっていかないといけない話は、当然あります。

それから、団地はコミュニティが比較的しっかりしていますけれども、高層マンションで、自治会から切り離されて、管理組合だけでやっているところの問題があります。結局のところ、管理組合は自治と言うには違うところがありますので、そういうところをどうやって入れ込んでいくかというのも、非常に大きなテーマだと思います。

それからことぶき大学校です。ここはですね、このままではいけないと思っております。否定するわけではありませんけれども、やっぱりボランティアをして頂かなければいけないだろうと思います。大学校を卒業した人が、先駆者として地域のリーダになってほしいという思いで、生徒を受け入れているところがあると思います。

ご意見のように、ボランティア活動を必須のものとしてやっていかなければいけませんし、卒業していきなりやれと言われてもできないところがありますから、徐々に慣れていって頂くような取り組みが、これから必要になってくるだろうと思います。私が考えていますのは、その大学校において、今は陶芸とか書道とか、いわゆる教養の部分だけをやっておりますけれども、本来であれば、公園を管理するにしても、ちょっと講習を受けたりすれば、より高度なものが自分たちでできるというのがあります。そういった部分について、例えば１年間かけて、地域で有償ボランティアとして働くために必要な知識だったり、ノウハウだったり、そういったものを、みっ

ちりと教えて貰える場所にすることも、十分に意味があると思っております。

そういう形で、地域ボランティアの高等学校みたいな位置づけというのは、十分あり得ると思います。有償ボランティアは、私もマニフェストでも掲げており、今検討しておりますけども、無償ボランティアというのは限界がやはりあります。別にいっぱいお金がほしい訳ではないんだけど、最低限のお金は貰わないとやれない事もたくさんあります。そういう有償ボランティアの意識や文化というのも、これから十分調整していかなければいけないと思います。

最後の寄附のお話については、先ほど空き教室の活用とかも含めてお話させて頂いたものと同じ解答になるかなと思います。いずれにしても、大きなテーマだと思います。

他にございませんか。せっかくの機会ですので、若い方にも、ご発言をお願いをしたいと思います。

【市民Ｍ】

都市計画についてですが、ある大きな会社の都市計画部門に行きまして、都市計画の失敗例を見るなら千葉市に行けと言われて、愕然としたことがあります。

住んで 25 年になりますが、例えばモノレール、千葉みなとなど、山下公園みたいになるということで非常に期待していたんですけれども、結局、マンション、パチンコ屋、こんな感じです。こういう感じだと、他の市に対して何が違うのかと、海を活かしているのかっていう事になるんです。それから、一等地に葬儀場ができてしまうとか、駅前ですとか、こういうのも将来的にはどうなのかなと思います。

もう一つは、まちの路駐が非常に多くて、運転しづらいまちです。他の大都市でもそうだと思うんですが、例えば茨城県の水戸は、本当に、まちの中心地に路駐がほとんどないんです。

行政と警察が協力しての取り組みだと思うんですけれども、稲毛海岸で言えば、稲毛駅に向かって行くところですね、あそこの道は、もうとにかく、２車線なんですけども１車線になっている。それから千葉市のまちの中だと、三越の立体駐車場から 14 号に抜ける道も朝晩路駐が多くて、非常に運転しづらい。こういう面も、これから未来に向けて市と警察と取り組んで、運転しやすい、住みやすいまちにしていって頂きたいなと思っています。

とにかく無秩序に、ちょっと空けばマンションというような形ですので、市の保有資産の売却とありましたが、売った後にそこに何が建つのかという事まで、考えて頂ければいいのかなと思います。

【熊谷市長】

ありがとうございます。

他に若い方の挙手をお願いしたいと思いますけれども、いかがでしょうか。

【市民Ｎ】

財政になるかと思うんですが、今、民間企業が何をやっているかというと、総務とかロジスティックとか、直接利益を生まないところをアウトソーシングしているんですよ。それも中国などにアウトソーシングして、企業に問い合わせの電話をすると、その電話は実は中国に繋がっていて、日本語の喋れる中国人の方が受けている。今いらっしゃっている職員の方にも、総務とかロジスティックに関わっている方もいらっしゃると思うので、ちょっと耳障りかも知れないですが。

各区役所に総務課があって、例えば経理の契約とか、職員の福利厚生とかをやってると思うんですが、そういうのをまとめて、例えば「総務ワーキング」として、千葉県はそういう事をやっているようなんですが、そういうのを作って効率化するという事は、たぶんお考えにはなっているとは思うんですが、どうでしょうか。

それから、先ほどボランティアのお話があったんですが、ボランティアと言うと、無償で何かをするというイメージが非常に強いかと思うんですが、進んで何かをやる方のことをボランティアというのが本来の意味ですので、何かをしたいという事を持ってらっしゃればボランティアで、お金を貰わずにやらないとかやるとかという事ではないんです。

日本はどうも、昔から自治会とか消防団とか、古く言えば江戸時代の五人組とか、強制的に何か無償でその地域のためにやらなければいけないボランティアみたいなのがあったんで、そういうイメージが強く、ボランティアの意味を勘違いしちゃってると言うか、本来の意味からずれてしまっています。ですので、そこを認識し直して頂くと、もっと千葉市のために何かできる、そしてそこで多くなくてもいいからお金を貰ってやる、というのがあってもいいのかなと思います。

【熊谷市長】

ありがとうございます。

他に若い方でご発言する方は、いらっしゃいませんか。

【市民 O】

自分としては心配というか、関心があるのは財政の問題です。

市長からも 270 億円、お金足りませんよというお話がありましたが、これから借金ばかりしていくのは、我々の世代、30 代とか 20 代が、国の借金、県とか市の借金も返さなければならないと考えておりますので、財政規律の話に一番関心があります。

民間企業が今何をやっているかと言いますと、やっぱり経費の削減です。いろんな細かいところでも経費の削減をやっておりますし、金銭的に投資とかよりも借金返済をやって、財務の健全化を図っているという状況です。市長にも、そういう細かいところで、経費の削減であるとか財政規律に取り組んで頂きたいと思います。

【熊谷市長】

ありがとうございます。若い方、３人に伺いました。

まず、都市計画の失敗例が見たければ千葉市という話は、非常にきつい言われようですが、否定できない部分もあるのは事実です。

都市計画の失敗というより、タイミングが悪いところがありまして、モノレールはともかくとして、千葉みなとの話も、バブルの時代にうまくスタートしていれば、おそらくもう少し良かったんだろうと思いますし、今はご覧のありさまで、マンションしか建たずに、学校が足りなくなって学校を作ったりしなきゃいけないとか、そういういびつな状況になっているという現実があります。

山下公園のように、というお話がありましたが、一応そういう予定だったんです。今でもまだあきらめてはいません。もうしばらく、４、５年かもうちょっとかかるかも知れませんが、あそこに埠頭ができます。埠頭ができればもう少し、観光船なども含めて、港まちらしいものは見せ

られると思います。

いずれにしても、県と市の共同事業でやります。後は、それを活かせるようなものを周辺にどうやって誘致できるか、来てもらえるか、そういうところが、これから５年後くらいの大きなテーマとして出てくることになります。

それから、路駐が多いというお話がありました。私も実感しておりますので、十分思いやっていかなければいけないと思います。

それから、財政のお話がお二方からもありました。20 代、30 代は、私も 30 代なんですが、みんな財政のことをお話になります。世代によって最優先事項が違うのかも知れませんが、どうしても、何か作ってくれ、どうしてくれというという話が多くなる中、もちろんそれはそれで大事なことですけれども、とにかく払うのは、子どもたちであったり、今の 20 代、30 代の人たちであったりするわけです。あまりに借金が多いと、10 年後、20 年後、あるいは 30 年後、どういう社会変化があるかわかりませんから、その時に、本当の意味で絶対やらなければいけない投資が必要になった時に、それができないかもしれないし、夢を奪う危険性があるんです。

そういう意味において、財政健全化、財政規律というのは、若干苦しい事があったとしても、将来の子どもたちに夢を残すために、やらなければいけない事だと思っております。

その中で、アウトソーシングの話がありました。ここが非常に難しいところで、確かにやっている自治体も出てきていますし、全くできないとは思わないですが、行政というのはちょっと特殊なところがあって、どういうものがアウトソーシングできるのかを、見極めていかなくてはなりません。

アウトソーシングそのものは私も否定していませんので、どういうものをアウトソースするかが重要なんですけれども、今やっていますのは、例えば電話の受付に関して、市役所のコールセンターというものを作っています。市役所のコールセンターをご存知の方、どれくらいいらっしゃるのでしょうか。いや、まあこれぐらいですよね。

市役所や区役所にかかってくる問い合わせの電話の中には、市の職員でなくても答えられるものが、非常にたくさんあるんです。もちろん、市民との対話の中では結構重要なんですけれども、しかし、それに市の職員が関わることで、コストが高くなってしまいます。こういったことについて今、市役所のコールセンターを立ち上げて、ここに極力巻き取っていこうという事をしています。

そういう意味では、アウトソーシングをこれからも進めていかなければというのが、われわれの考え方です。このコールセンターは、周知がなかなかし切れていないところがありますので、十分考えていかなきゃいけないところだと思っています。

もう一度自由なテーマで、お話を伺いたいと思っております。

【市民Ｐ】

市長さんに提言したい事と、美浜区の皆さんに聞いて頂きたいという事で、若葉区から来ました。

私の提言というのは、千葉市の中に６区ありますが、非常に地域間格差があるということです。私は町内会の会長をやっており、独自のまちづくりに一生懸命励んでいます。例えば、先ほどボランティアの話が出ましたが、ボランティアを募ってお年寄りをみんなで支えようという事で、安心ネットですか、これを年明けからスタートしました。で、そういう事を一つひとつやってい

く段階で、非常に気になってしょうがないのが、地域間格差があることなんです。

財政危機の元凶は、中央区辺りに大型投資をどんどんどんどん、身の丈を超えてやってきた結果です。ところが私どもは、例えばどぶ板１枚取り替えてほしいって言っても、２年越しで交渉している訳です。例えばの話ですが。だから今言ったように、私どもは美浜区の皆さんのような、こういうまちづくりを、同じようにやろうとは思っていません。われわれの地域に合ったものを作ろうと、一生懸命やっています。

だからちょっと、行政が背中を押して頂ければ、もっとわれわれに弾みがつくんですよ。そういう意味で、これからの財政ピンチの中で、施策を進めていくにあたっては、それぞれの地域の特色にあった対策、施策を進めて、なおかつ、地域間格差がないようにと。そういうふうにして頂きたい。私ども若葉区の住人も千葉市民という事を、ぜひ忘れないで頂きたい。

【熊谷市長】

ありがとうございました。

さて、時間も迫ってまいりましたので、ここからはテーマ絞らずに、聞かせて頂こうかなと思っております。

【市民Ｐ】

仕事と家庭での両立支援について、お話させて頂きたいと思います。

まず保育所ですけれども、今日ちょっとホームページを見ましたら、11 月１日現在で 769 人の待機児童がいるという事です。私が一番上の子どもを預け始めた時には、年度末の３月にも乳児が入所して来まして、待機児童問題を身近に感じることはありませんでした。769 人というのは、本当にとてつもない数です。それだけのお母さん方が、仕事に復帰したくても、あるいは、就職したくてもできない、あるいは、それは書類を出して待っている方の数ですので、それ以上の数の方が、仕事ができないで待っているという状態なわけです。

一方、少子化のあおりを受けて、幼稚園は次々と経営困難に陥っています。私の居住地区の近くでも、この 10 年ぐらいの間に３つの幼稚園が廃園になったり、それから半分に規模を縮小したり、あるいは高齢者施設を併設する形に経営転換を図っております。こういった幼稚園というのは厳しい設置基準がありますので、廃園になったり、規模縮小しても社会的な資源として残る訳ですけれども、それを認定子ども園の形で活かす事ができないだろうかと考えております。そういうところの１園とか２園を認定子ども園にして頂けると、保育所の待機児童問題はずいぶん解消できるのではないかと思います。

そしてもう一つは、子どもルームの待機児童問題です。これはやはり、政策の優先順位としては、まず全小学校に子どもルームを一つずつ開設して頂きたいと思います。11 月１日の市政だよりで、来年度の新規利用申し込みの一覧表がありましたけれども、見ますと、一度学校外にルームを作っておきながら、新たに整備して学校内に戻ってくるというような施設が、いくつもあります。それから第２ルームを開設っていう学校も、たくさんあります。政策の優先順位としては、子どもルームのない学校を優先することじゃないかなと思います。

母親の就労を支援するという事は、子どもの健全育成をちょっとおざなりにすることによって将来的に生じるマイナスコストを、あらかじめ回避することになります。なにはともあれ、今、財政規律とかって話がいっぱい出てきているんですけれども、市税の徴収を安定的に確保する事

にも繋がります。お母さん方の就労を支援する事は、そういう事に繋がります。それを、子どもルームの待機児童問題を後回しにされるのは、ちょっと考えもんだなと思います。

【熊谷市長】
ありがとうございました。もうお一方、お願いします。

【市民Q】
重度の心身障害を持っている息子がいます。子どもが小さい時から、やはり障害が重いからという事で、特別な保育所に通っていました。そして、学校に上がる時も養護学校という学校の選択しかなかったんですが、小さい時から地域の子どもたちと交わりながら育てたい、そういう思いが強かったので、近くの小学校に、兄弟が通う時に一緒に連れて行って、参観とか、運動会とか、一緒に参加してきました。

で、ずいぶん知って貰ったんですが、でもやはり、子どもは地域の子どもと言う事で、地域の学校に通いたかったな、という思いがあります。やっぱりどこの学校でも、子どもたちが、障害があっても受け入れてもらえるような体制ができるといいな、という事が一つです。

息子は、24歳になりまして卒業しました。卒業時点で、やはり遠くの施設には通わせたくないという思いがあって、在宅にしましたが、周りの皆さんの声かけで、ワークホームを作りました。磯辺にワークホームを作って、地域の人の支えを頂いて、暮らしています。それはすごく良かったんですが、これから先の事がすごく心配です。親の具合が悪くなったら、親が倒れたらこの子はやはり施設に行ってしまうのかという心配です。ですので、やはり地域の中で暮らせる場所、そういうのが、例えば一戸建ての家を借りて、そこで暮らせるような場所が、たくさん地域の中に欲しいなと思います。

そしてその時にですが、高齢者とか障害者とかという枠を取り除いて、その地域の中で、支援の必要な方たちが一緒になって暮らせる場所があればいいと思います。ワークホームをやっていますと、いろんな方がお見えになって、やはり日々が大変で、ちょっとしたこの場所で子どもを預けてくれ、ゆっくりご飯が食べられるところがあるって嬉しいって言ってくださったりします。

やはり地域の中ではいろんな方がいらっしゃる。その中で、一緒になって暮らせるところがあったらいいのかなと思います。あまり、ここからここは高齢者福祉課、こっちは障害福祉課という形ではなくて、そういう行政の方で、支え合ってくれるといいなと思っています。

【熊谷市長】
ありがとうございました。

まず若葉区からお越し頂いて、それぞれの区の特色に合った対策という話ですが、やはりそこが大事だと思っています。今回、市の基本計画を作りますけれども、その後で、それぞれの区ごとに自治計画なりを作っていこうと思っています。それぞれの区で、地域福祉計画も含めて、まちづくりをどうしていくのかと考えようと思っております。

その中で、若葉区なら若葉区、美浜区なら美浜区の、それぞれの特徴を活かしたまちづくりをしていかなければいけません。私自身の考えとしても、今までは確かに大型の再開発とかを中心としたわかりやすいまちづくりでしたけれども、おそらくもうこれからの時代には通用しませんので、もう少しきめ細かい分野にお金を使って、100億円を、それこそ100分の１、1,000分の１、

10,000 分の１にして、それぞれ細かく出していくような形が求められてくると思っております。十分に考えていかなければいけない問題だと思います。

それから、仕事と家庭の両立の話で、待機児童のお話です。一番大きなポイントの一つだと思います。われわれが考えていることと、非常に近いようなお話を頂いたんですけれども、実は幼稚園の活用を考えています。保育所が足りなくて、保育所を作っている一方で、子どもが減って幼稚園が閉鎖したり、今 25%くらい空きがまだあるんです、平均して。そのような状況というのは、非常にいびつな話だと思います。

幼稚園は、園庭も含めて、非常に整備されておりますので、この幼稚園の活用を、それは子ども園という形もありますけれども、延長保育であったり、幼稚園に保育所的な機能をもっと持たしていかなければいけないと思っています。それはどういう事かというと、今は保育所が足りないんですけども、20 年後は、また逆転してしまうんです。保育所がいらなくなるのが確実な場所も、たくさんあるんです。

そうなると、インフラを作ってしまうと、機能して回転した頃にもういらなくなるとか、そういう可能性が非常にありますので、保育所を作る時も、これからは先を考えた上で、一番コストのかからないやり方でやらなきゃいけないと思います。その中で、幼稚園は十分に活用していかなければいけないだろうと、そういう話が、われわれのテーマとして思っている事でございます。それから、そういう施設を作らなくても支えられるネットワークづくりというのも、当然、大事になってくると思います。

子どもルームの話は、千葉市の基本的な考え方として、まず全小学校区に子どもルームを作ると、それが一つの考え方です。ただ、その用地がないですとか、教室が空いてないとかいう理由で、どうしても作れない部分があるのは事実ですけれども、われわれの最優先事項は、全小学校区に作るんだというのが一つの考え方ですので、ご理解を頂きたいと思います。

それから、重度心身障害をお持ちの方のお話です。地域の学校に通いたいというお話も、もちろんあります。どうしていくのかという中で、よく言われるのは、２つの学校に在籍したいというお話です。特別支援学校に行くのも仕方ないけど、しかし、住んでいる場所の学校にも籍を残して、そこで、例えば学校の行事とかに参加したりして、やっぱり地域の子どもたちと、同世代との交流もしたいというお話も頂いております。

どういう形でやっていくのかという中には、受け入れられるように設備を改修していかなければいけないという話もありますし、それと同時に、特別支援学校に通っても、地域の子どもたちと顔が見えるような関係を作っていくようなやり方というのも、十分あると思いますし、実際、他市でもやっているところもありますので、そういったところを考えていかなければと思います。

やはり、学校を卒業してからの話は、よく言われるんです。学校にいる間は支援の手があるんだけれども、卒業すると、働ける子どもは就労できる訳ですけれども、それ以外の子どもというのは、行き場がなくて結局学校にいざるを得ない訳です。それを受け入れていくような現状も、確かにあります。

千葉市にもワークホームが、いい制度だと思いますけれど、それも含めてですね、どう居場所づくりをやっていくか、仰ったように高齢者ですとかの枠を決めずにですね、支えが必要な人たちがお互いを支えたり、支えたいと思う人が来たりとかする、そういうものをどう作っていくかは、これからのテーマだと思っております。

まだもうちょっと時間がありますので、ご意見を頂きたいと思います。

【市民R】

住んでいるマンションの下に、今年、自転車専用道路ができたんです。ほんの 200mくらいなんですが、この先これがどう繋がっていくのか、計画が全然わからないんです。私としては、自転車ロードっていうのは、これから、美浜区っていうのは特に平らなところが多いですので、整備して頂いて、安全で楽しめるところとして、若い人なんかがもっと東京の方からも来て頂けるように整備して頂いたらいいなと思うんです。これは、どのようなに計画されているのかちょっとお聞きしたいです。

【熊谷市長】

わかりました、ありがとうございます。

【市民S】

打瀬は高齢化率が 3.7%くらいで、磯辺が 22%くらいになっているんです。マンションが建って、また学校建てなきゃいけないなって、電車に乗るたびに思うんですが、非常に効率が悪いし経費もかかり大変だと思うんです。

あそこの川にですね、子どもたちが磯辺の空き教室に通えるように、専用の橋を作ればかなりの問題が解決するんじゃないかと思ったんです。橋はそんなにお金がかからないし、学校建てるよりずーっとずーっと安いし、打瀬の子どもたちが磯辺の空いている教室に通って、そうすれば、統廃合とかいろんな問題も解消とされるんじゃないかな、思ったんです。

【熊谷市長】

ありがとうございます。

【市民T】

財政の問題ですが、申し訳ないんですが、国も県も市も、お金が足りないって話は、すぐには信じられません。国でいえば相当無駄遣いがあるし、それはもうボロボロと、いろんなところから出てきている訳です。そういう訳で、お金がないっていう事を、皆さんが素直に信じられるのが私には信じられないです。

市にも、そういうものがゼロだとは思ってないので、少し方向を変えて、何にどれだけ使われているのか示して、もしかすると市政だよりで出ているのかも知れませんが、そうするとお金の使い道っていうのは、もっと、私たちが願っているところに使えるんじゃないかと思います。

その時に考えるのは、憲法の 25 条の社会保障の問題です。それぞれの課題は、例えばアウトソーシングすれば解決するかも知れないし、いろいろ、ボランティアだけでできるかも知れません。だけど全体を考えた時に、憲法の 25 条で保障しているものから外れていくんじゃないかと、つまり、民間に任せれば利潤を追求する訳ですから、全部を企業に任せたら、小泉さん時代に思ったような、日本の国はどうなっちゃうのと思ったような、そういう状況が、千葉市にも出てくるんじゃないかと思うんです。お金、お金、お金という世界が千葉市にも蔓延して、生きづらくなるんじゃないかなと。

それと関連して、スポーツの振興もいいと思うし、ＩＴ産業っていうものもいいと思うんです

が、私は、もう少し文化を大事にして欲しいと思っています。でないと、子どもが感情豊かに育ちません。数学は割り切れるし、スポーツも勝ち負けで決着がついちゃいますね。だけど文化っていうのはそうではなくて、多様な人間性を、どう開花させるかってことだと思うので、教育とも関係していると思うんですけど、文化の大切さを、市長には考えて頂きたいと思ってます。

【熊谷市長】

ありがとうございました。

まず、自転車の話ですけれども、そちらの地域を実験地区としてやらせて頂いて、自転車道をどう整備していくかを考えております。特にこの美浜区が自転車に適しているのは、誰がどう見ても事実ですから、こういったところについてもやって参りますし、千葉市全体で、まずはある程度環状的に、自転車である程度、遠出ができるというか、移動ができるようにしていくというのが大きな流れです。

いずれにしても、われわれとしては、どんどん自転車道の整備計画をお出ししていきますので、その中で、見えていくと思います。自転車道は相当力を入れて、充実させていきたいと考えておりますので、逆に、自転車で走行していく中でお気づきの点も、お寄せ頂きたいと思います。

それから、橋もお金を使う訳ですけれども、難しいのは学区の話で、保護者の方々には想いがありますから、なかなかまとまらないところがある訳です。兄弟が行ってるから、違うところには行きたくないとか、そういうのがあってですね、学区を調整するだけでも、合意を取るのが非常に難しい状況です。

本来であれば、先ほど仰ったように、足りないと言うなら、隣の学校が空いているんだから、行けばいいじゃないと思う訳ですけれども、そういうところがなかなか上手くいかないのが、子どもを持っていらっしゃる保護者の皆さん方の思いなんですね。常にそこと向き合いながら、学校の適正な配置を考えさせて頂いているというところでございます。

お金がないのは信じないと、そういう意見がありました。確かに、今までの国のやっておる事を見て、そういう思いになるのは、至極しょうがないのかなと思うんです。ただですね、国と市は決定的に違います。それは何故かというと、市の持っている予算のうち、市が自由にできる部分は、ほとんどありません。国や県が決めて、自動的にお金を出していかなければいけないところが６割、７割を占めています。余った２割、３割のところを行政は投資に回しているのが実態なんです。

このように、国や県はお金を配分する機関ですから、そこには無駄が比較的生じやすいかも知れません。しかし申し上げておきますと、市にはないです。市が、お金がないと言えば本当にありません。で、市にお金がなくなれば、本当に誰も逃げられないんです。国は、お金がなくなれば、三位一体改革、小泉さんのように地方に負担を渡して、例えば今だって事業仕訳をやっていますけれども、最終的には単に、地方に負担を押しつけるだけの話かも知れません。例えば橋下さんの大阪の改革も、あれは結局、大阪府の中の市に泣いてもらって成立しているようなところがあります。最後は、市が受け止めるんです。だから、市にお金がないと言えば、本当にないんです。この点については、しっかりとご認識を頂かないとだめだと思います。

だから、これからを考えていかなければならないんです。一番の問題は、今、さまざまな高齢者福祉がありますが、これが維持できない訳です。確実に。今の税金の体制では、絶対に維持できないです。どうなるかと言うと、例えば 10 年間、今と同じ水準でやって、お金がまるでなくな

ったら、10 年後からいきなりゼロにしますか、という話になる訳です。

それはやっぱりおかしいです。そう考えるならば、10 年間を今の７割にすれば、もっと多くの人が長年受けられるんじゃないかとか、そういう議論をしていかなければいけないんです。今まで、この議論からずっと逃げて来た訳です、行政というのは。例えば、敬老祝い金もいきなり廃止になりましたよね。あれは、５年前、10 年前に、いずれ成り立たなくなるというのは、誰だって計算できたはずなんです。であるならば、敬老祝い金の見直しが必要かという事を、もう少し時間を掛けて議論するべきだったんです。

10 年後、高齢者がどのくらいの数になるかは計算できる訳ですから、高齢者福祉が 10 年後、20 年後に一体いくらの規模になるのか､それをしっかりお出しして､どういう見直しをするのか、無くすんじゃなくて、例えば金額を減らせばいいのか、もしくは対象者を、所得の制限を入れて減らすのがいいのか、どれが一番納得のいくやり方なのか、それを３年なり５年なり掛けて議論して、一番納得できる形でやっていく事が大事だと思っています。そういう意味での基本計画であったり、実施計画を作っていきたいと考えております。

市にお金がないというのは、もちろんわれわれは、無駄をいっぱい削減しますが、しかし市の削減の余地というのは限界がある、贅肉が比較的少ないのが市ですから、そういうところは十分ご理解を頂きたいと思います。

時間がなくなって参りましたので、あとお一方だけお話を伺いたいと思います。

【市民 U】

千葉市にお金がないっていう事なんですけれども、その原因が何かっていうと、要するに１兆円を超す負債があって、予算の中でも 400 億位が、債権を利用する事で予算の中に組み入れるっていう、そういう財政の形をとっていますね。しかもそれに、いろんな公共の建物が、どんどん、とても形良く建てられて、それが今、どんどんお金を返さなくちゃいけないと。そういう積み立てられていた負債をどうするかっていう、そこですよね。

だから私たちも、負債を返さないと若い世代の人たちに申し訳ないって事で、無理な要求はやめようと、自分たちでできることは自分たちでしようと、そう思っています。そういう事で、自分たちの老後に対して、なるべく市の負担がないように、自分たちで活躍しようと思うんですけれども、そのためにも確かな拠点づくりが、やっぱり一番必要だって思います。

そういう意味でも、空き教室を、今後どんどん開放して頂ければ、市のお金が出るところが少なくて済むと思いますし、やっぱりわれわれの力を活用するっていう事は、医療費にしても何にしても、われわれが健康でいるっていう事がやっぱり大事だと思いますので、市のご努力をぜひ期待したいと思います。

【熊谷市長】

ありがとうございました。

医療の話も重要でして、皆さん方が健康であるだけで、すごい金額が浮くんです。だからそういう意味でも、市民の皆さん方のちょっとしたお気づきの点でも、十分市を支えられる事はたくさんあると思うし、それをもっとちゃんとお伝えしていかなければいけない、数字でちゃんとお示ししていかなければと思っております。

例えば、この中でたばこを吸う方はどのくらいいらっしゃいますか。別にタバコを吸ってほし

いわけではありませんけど。たばこ税は、買った場所で納税することになりますから、東京にお勤めの方が東京でたばこを買うと、東京にお金が行っちゃうわけです。例えばたばこを一つ買って頂くにしても、千葉市で買って頂ければ、これは全然違う訳です。宝くじを買われる方って、どれくらいいらっしゃいますか。宝くじも千葉市で買ってほしいんです。あれは売り上げに応じて収益金が千葉市、千葉県に来るんです。

例えばそういう形で、財政が危ないと言ってるだけじゃなくて、市民一人ひとりがちょっとした気づきの中でできる事も、しっかりと出していって、自分たちのまちを支えているんだという納税の意識もですね、ちゃんと持って頂いて、そのぶん、言う事も言うよと、そういう文化を作っていきたいと思っております。

拠点づくりの話は承りました。

【原企画課長】

すみません、そろそろお時間でございます。最後に市長より、まとめをお願いいたします。

【熊谷市長】

長時間、さまざまな形でご意見を頂きまして、本当にありがとうございます。

時間に限りがありましたので、ご発言できなかった方、もしくは全然言い足りない方、たくさんいらっしゃるかと思いますけれども、今日が終わりではございません。この後、市民ワークショップもございますし、それ以外にもさまざまな形で、私たちにご意見をお寄せ頂きたいと思います。

いずれにしても、これがスタートです。こういう活動を通じて、市民の皆さん方がまちというものを考えて、そしてまちづくりの活動の中で、行政がどうサポートをしていけば、もっと市民の皆様方の活動が花開いていくのかという事を考えていって、時間を掛けて作り上げていきたいと思っております。

そういう形の中で、このまちが全国に誇れる、一番、市民の力を無駄にしていないまちだという事を、市民の力でこのまちが輝いているという事を言えるような、そういうまちづくりを、子どもたちにも、未来の世代にも残していきたいと思っておりますので、今後とも、厳しい意見も含めてさまざまなご提案、そしてご活動をお願いしたいと思っております。

本日は、本当にありがとうございました。

■閉会

以上